

# 各委員会報告

## ■資料委員会

資料委員会は図書館長あてに申請された原則として1部または1セット100万円以上の資料の購入につき審議する会議体である。審議結果は課長会を通じて館長に報告し承認を得る。1997年度の構成メンバーは次のとおりである。

酒井副館長 本間事務副部長兼総務課長 松下図書課長(委員長) 吉田整理課長 溝渕雑誌課長兼映像資料課長 井口戸山図書館担当課長

1997年度は総計21件の申請があり、年間6回委員会を開いて慎重に審議をおこなった結果、9件を購入、6件を保留、6件を謝絶とした。また、96年度申請案件のうち保留としていた2件について、購入を決めた。購入決定したものは課長会への報告後ただちに図書館広報紙『ふみくら』に掲載し、情報公開をはかっている。

申請資料のうち1,000万円を超えるものについては、さらに学内の専任教員を委員に委嘱して高額資料購入審査会を組織し、可否を審議することとしている。今年度は1件、「今井卓爾収集 日本近代詩歌書コレクション 224点」¥23,814,000(図書館図書課申請)について同委員会を開き、購入が適当との結論を出した。

## ■広報委員会

例年の広報誌の発行、展示会の開催、オリエンテーション・WINE講習会の実施などの他に今年度は広報整備に取り組んだ。昨年度、ホームページを開設したことにより図書館の広報も大きく様変わりしたが、新しい情報を的確にかつ積極的に利用者に伝えることを目的として、広報委員会の下に3連絡会を設け以下のような活動を行った。

### 1. 広報整備連絡会

広報媒体の全体的な見直しを行った。特に新入生オリエンテーション用に配布する資料の見直し更新を検討、実施を関連箇所に依頼した。

### 2. ホームページによる広報関連連絡会

ホームページに掲載する情報の内容更新を各図書館単位で行うとともに、ホームページの特性を活かした情報の関連付け、速報、見やすい画面づくりをめざす。

### 3. 学術情報リンク集関連連絡会

ホームページ上に作成した学術情報リンク集の維持更新をはかるとともに、今後は利用者への積極的な活用法の紹介をはかる。

## ■ネットワーク委員会

1996年10月よりサービスを開始したOCLCFirstSearchの利用期限が1998年7月に迫ってきたが、利用残が相当量ある。それらが無駄にしないための方策につき検討を重ねてきた。解決策の第一は、利用の促進である。より利用を簡便にするため、パスワードの個人配布方式から、大学を通せば誰もが利用できるオープン方式に変更する。また、西早稲田キャンパスの研究者を対象とした講習会を箇所毎に開催することとした。第二は、利用期限の延長をOCLCに申し出ることとし、交渉中であるが、了承される見通しである。

G4FAXによる雑誌論文の取り寄せを一部機関間で実施しているが、中央図書館および戸山図書館を新たにこのネットワークに参加させる方向で検討を進めてきた。機器の新設、実施要領の作成等の準備もほぼ完了したので、1998年度早々には実施される。

## ■次期図書館 システム委員会

図書館は1997年6月に次期図書館システム委員会を組織し、図書館システムの主管箇所であるメディアネットワークセンター(MNC)と協力して次期図書館システム導入に関する政策的問題を審議し、協力業者に対応してきた。システムの具体的な各機能については委員会の下に設けられたワーキンググループで検討してきた。

MNCとのより一層の協力体制を構築するため、1998年1月にMNCの役職者を含めて委員会を再編成し、全学情報環境の一環としての次期図書館システムについて協議を続けている。

## ■研修委員会

情報化の進展にともなう図書館業務の多様化がすすむなかで、図書館職員の各種研修参加も盛んである。1997年度の研修参加の詳細は本年報の「研修受講者等」の欄をご覧ください。

最近の図書館における研修は、館内での所蔵資料に関する研修、語学研修、私立大学図書館協会などの主催する研修などの他、日常的な情報機器の操作や外部データベース検索に関する研修などたいへん多くなっている。長期的スパンでの研修と短期的(日常業務に関する)研修が並行して実施されているのが現状である。研修委員会としては、これらの研修の整備を行いつつ、積極的な図書館職員の参加を働きかけている。